

2010年(平成22年)7月21日(水曜日)

日月往来

まちは確かに動き始めている。新たに開講した「まちなか開業塾」を取材し、空き店舗での開業に関心を持つ受講者らの真摯な気に触れて、そう思った。

初日の受講者は十六人。

男性より女性の方が多く、若い人の姿も。講師のアーリー・バード代表三田泰久さんは、自身が小さな会社を経営しているだけあって

再生の鼓動

話の中身が実践的だ。受講者からも「採算が取れるかどうかの境目は、どう見極めたらよいか」などと踏み込んだ質問が出た。



道につながるのだろう。

松阪のまちなかには、いろいろ面白い素材があり、工夫次第で大きく化ける可能性がある。かつて江戸店を持つ商家の名門を輩出し、商

「開業塾」は、市が三月に策定した「まちなか再生プラン」に掲げる六十項目の施策の一つ。プランを最初に読んだときは、正直、

都と呼ばれる伝統もある。「日本を元気にする、まちなかづくりのひな型をつくる」ぐらいの気概でいきたい。(松阪支局長・上田寿行)